

北九州市児童福祉施設等
第三者評価
評価項目別結果票

事業者名

門司保育所(みどり園) 保育所(園)

評価実施日

令和3年 10月 28日

I 子どもの発達援助

評価 分類	評価項目	評 価				評 価 (また は 非 該 当) の 理 由
		a	b	c	d	
1 発達援助の基本	(1) 全体的な計画	自己 評価	○			該当する「判断基準」(アイウエオ) 保育所保育指針の基本原則に基づき、門司保育所基本理念、保育方針、保育目標を鑑みて、作成している。また年度初めの保護者とのクラス懇談会や保護者会との話し合いの中で、意見交換をし、計画に反映させるようしている。専門リーダーを中心にクラスごとで改善点を話し合い、それを持ち寄ってリーダー会議で見直しをしている。
		委員 評価				該当する「判断基準」()
	(2) 指導計画	自己 評価	○			該当する「判断基準」(アイウエオカ) 子どもの姿を基に、クラス担任が、年間・月間・週間また未満児においては個別の月間計画を作成し、自身の反省と評価、園長、主任のアドバイスを受け次の計画を作成している。 最初の計画を立てるときには会議の中で、各クラスの目標とするところを話し合い、その年の子どもの姿、行事の反省等を踏まえて計画作成するようしている。
		委員 評価				該当する「判断基準」()
	(3) 保育の記録	自己 評価	○			該当する「判断基準」(アイウエ) 北九州市の帳票の様式を使用し、保育の記録の整備をしている。記入にあたっては、午睡中や、土曜日その他交代で記入できる時間の確保を職員同士で積極的に声掛けをしながら確保している。クラス会議、保育会議、園内研修、リーダー会議などを活用して必要な子どもの情報を共有するようになっている。日々のクラスの動きや伝達事項は毎朝の朝礼で周知するようしている。

評価分類	評価項目		評 価				評 価 (また は 非 該 当) の 理 由
			a	b	c	d	
1 発達援助の基本	(4) ケース会議等	委員評価					該当する「判断基準」()
		自己評価	○				該当する「判断基準」(アイウエ) ケース会議は最低毎月1回開催し、子どもの発達上の課題や問題点、クラスで困っていること、保護者とのやり取り等の情報共有を行い、問題に応じて関係機関との連携を行うようにしている。保護者との信頼関係の構築を元に連携して子どもにとって最善の環境作りが出来るよう努力している。
2 健康管理・食事	(5) 健康管理	委員評価					該当する「判断基準」()
		自己評価	○				該当する「判断基準」(アイウエオカキクケコ) 自園の健康管理保健年間管理計画に基づいて、健康対策に取り組んでいる。 朝の受け入れ時の保護者との情報交換、視診や個人連絡帳、その日の様子で子ども一人一人の健康状態を把握している。 マニュアルの整備、見直しを必要に応じて行い、マニュアルに沿って子どもに個別に対応している。

	(6) 健康診断・ 歯科健康診査	自己評価	○				該当する「判断基準」(アイウエオカキク) 健康診断の結果を保護者に伝え、必要と判断されたときは専門機関に相談するよう勧めている。年2回の全園児健康診断時にはその時の園での健康問題について相談したり、流行している病気について情報交換を行ったりしている。4・5歳児に関しては医師会作成の保護者アンケートを記入してもらい、医師に情報を伝えている。園医だよりを作成してもらい保育士、保護者へも健康問題について情報提供している。 4・5歳児においては歯科検診を行い結果を保護者に伝えている。また北九州市の歯科検診も勧めている。今後も園医との連携を深めていきたい。
		委員評価					該当する「判断基準」()
評価 分類	評価項目	評 価				評 価 (また は 非 該 当) の 理 由	
		a	b	c	d		
2 健康管理・ 食事	(7) 感染症への 対応	自己評価	○				該当する「判断基準」(アイウエオカキクケ) 感染症の流行時には、園での感染状況を保護者と共有できるように、感染症のクラス別流行状況を知らせるボードを見やすい場所に設置している。 全職員が感染症情報を周知し、保護者からの問い合わせに対応できるようしている。また必要に応じてアドバイスができるよう、全職員が知識の習得に努めるようにしている。 マニュアルの見直しを適時行っている。
		委員評価					該当する「判断基準」()

(8) 除去食	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキ)</p> <p>除去食に対して診断書を提出してもらっている。除去食開始時には保護者、担当保育士、調理担当者、園長又は主任による四者協議を行い除去の内容と献立の検討、確認を行い、個人記録簿に記載している。配膳は専用食器、トレイ、ネームプレートで区別している。食事の受け渡し時、保育室での飲食時には間違いのないように職員間で声を掛けそれぞれの子どもに対して確認している。</p>
	委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
(9) 給食	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキ)</p> <p>食育について管理栄養士、栄養士と保育士が連携をしっかりととり、保護者へ食の大切さを伝えるようしている。毎月給食だよりを発行し、レシピ配布、給食試食会の開催など保護者への啓蒙活動を積極的に行っている。</p> <p>給食の喫食状況を各クラスに巡回して把握し、偏食がある子どもに対しては、担当保育士と連携して少しでも改善がみられるように個別に対応している。</p> <p>また食育の日を設け子どもの年齢に合った活動を行っている。</p> <p>菜園計画を各クラスの保育士と連携して作成し、収穫したものを味わえるようにしている。</p>
	委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>

評価分類	評価項目	評価				評価（または非該当）の理由	
		a	b	c	d		
2 健康管理・食事	(10) 食事を楽しむ工夫	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキクケコサシ)園独自の食育計画を元に、各クラスの担当保育士と調理担当者が連携して楽しく食事ができるよう工夫している。</p> <p>食事に対する正しいマナーが身についたり、食べ物について興味関心が深まるように工夫している。</p> <p>菜園計画を各クラスの保育士と連携して作成し、収穫したものを味わえるようにしている。</p> <p>「おでん屋さん」「クリスマス立食パーティー」「そうめんパーティー」等を設け食事スタイルを工夫している。</p> <p>また年長・年中児は「おてっだい活動」を通して実際の給食に関わり、食への興味が深まるよう工夫している。</p>
		委員評価					該当する「判断基準」()
3 保育環境	(11) 環境の整備	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキクケコサシ)室内環境では年齢に応じて子ども一人一人が主体的に活動できるように、室内環境を整えコーナー等子どもがあそび込める空間づくりに努めている。</p> <p>園庭では、年齢に応じて伸び伸びとあそべるよう十分な広さを確保し、固定遊具の安全なあそび方も子どもとしっかり約束し、落下防止、また緩衝マット等の設置も行って安全に配慮している。</p> <p>玩具の消毒等の衛生面にも十分配慮している。</p>
		委員評価					該当する「判断基準」()

4 保育内容	(12) 人間関係(子どもの受容)	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエ)</p> <p>子どもの言葉に応答的に対応し、気持ちに寄り添ったり、気持ちを受け止めたりし、信頼関係を深めるようしている。</p> <p>子どもの気持ちを代弁し、友達関係の仲介をしたり、保護者に伝えたり、保護者の気持ちも子どもに伝えたりといったことを日常的に自然に行い、人間関係のスムーズな構築ができるよう努力している。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
評価分類	評価項目	評価				評価(または非該当)の理由	
			a	b	c	d	
4 保育内容	(13) 健康(生活習慣や生理現象)	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキクケコ)</p> <p>個々の子どもの状況に合わせて援助し、子ども一人一人が無理なく生活習慣を獲得していけるようしている。</p> <p>安全面では事故防止マニュアルに沿って常にチェックするようしている。</p> <p>遊具の使用方法については、職員間で申し合わせを行い、それを子どもが分かりやすいよう随時伝えるようしている。</p> <p>手洗い指導は日々の保育の中で保育士が年齢に応じて指導している。</p> <p>交通安全指導については視聴覚教材、実際の散歩に出かけた場面などで知らせるようしている。今年度は警察署の協力で、年長児に向けて交通安全指導を行う予定である。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>

(14) 遊びの環境	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキク)</p> <p>子どもが主体的にあそべるよう各クラスでは担任保育士が中心となって環境整備に取り組んでいる。</p> <p>行事に向けては、クラスミーティングの中で、子どもの意見をくみ取ったり、子ども同士で話し合いの中から発想が出たりといったことを大切にして活動を子どもと一緒に組み立てるようしている。子どもの「○○したい」といった意欲に寄り添い、どのようにしたら実行できるか一緒に考えている。</p> <p>室内環境については月一回の保育会議で「クラスウェブ」を見ながら各クラスで今ブームになっていること、室内環境について担任保育士が話し、出席者から意見をもらうようしている。アドバイスを元に環境について再構築を行っている。</p>
	委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
(15) 環境(身近な自然や社会とのかかわり)	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキク)</p> <p>散歩を通して自然環境に触れる機会を多く持つなど工夫している。</p> <p>各クラス担任保育士が、子どもが発見したり、気づいたりしたことから、虫の幼虫を育てたりなどし、その生育過程を子どもと共有できるようしている。</p> <p>視聴覚教材を使って、エコ問題を子どもと考える中で興味関心が広がるようしている。</p> <p>環境問題では今年度は「SDGS」を取り上げ、保育士がグループワークで考えを出しあったり掲示物で保護者にも伝えたり、子どもにも分かりやすく伝えるようしている。</p> <p>プルタグ・古切手、子どもがあそびの中で使う廃材等の回収を保護者の協力のもと行い、活用している。</p>

評価 分類	評価項目	委員 評価	評 価				評 価 (また は 非 該 当) の 理 由
			a	b	c	d	
4 保育内容	(16) 表現	自己 評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキクケコ)</p> <p>子どもたちが自由に素材を選んで表現できるよう、担任保育士は各年齢に合わせて環境を整備している。</p> <p>子どもが表現したいという欲求を見逃さず、適時表現できる環境作りを、子どもや時には他の保育士にも協力してもらい行うようにしている。</p> <p>視聴覚教材使用計画を立て、適切に使用するようしている。</p> <p>保護者会と連携を密にし、今年度の行事等について話し合いを行い意見交換の中から実施方法について方向性を考えている。</p>
		委員 評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
	(17) 人間関係(子 ども同士の関 係)	自己 評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカ)</p> <p>朝夕の異年齢児合同で過ごす機会や、日常の保育の中での触れ合いを通して、異年齢児との関わりを深めている。3歳以上児においては日常の保育の中で異年齢での関わりが深まるようしている。</p> <p>全体的な計画や指導計画の中でも位置づけを行い、各クラスでも工夫して取り組んでいくようしている。</p> <p>当番活動にこだわらず、こどもの「やってみたい」という気持ちを大切に、こどもの気持ちに寄り添って意欲が満たされるようしている。</p> <p>こどもの言葉や心持ちに寄り添い、公平な態度でその時々で必要な対応をするようしている。その都度子ども自身が納得できるよう心掛けている。</p>

		委員評価					該当する「判断基準」()
	(18) 言葉(話す、聞く)	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキク)</p> <p>日常的に多くの絵本と接する機会を多く持つようしている。園の図書を借り家庭に持ち帰り楽しめるよう毎週木・金曜日を「絵本を借りる日」として子どもにも活動が根付いている。また絵本の係を中心に蔵書の整理を行い、保護者向けに絵本リストを公表して貸出のリクエストに応じている。また絵本講座も行い絵本の大切さを啓蒙している。年齢に応じたおすすめ絵本の紹介等を「えほんだより」を発行し行っている。子どもが安心して自分の気持ちを表現できるような人的環境作りを保育士が常に意識するように工夫している。特に3歳以上児ではクラスミーティングの機会を大切に子ども同士の言葉のやり取りや、その中で相手の気持ちを考えることができる機会となるように保育士が仲立ちするようしている。</p>
		委員評価					該当する「判断基準」()
評価分類	評価項目	評価				評価 (または 非 該 当) の 理 由	
		a	b	c	d		

4 保育内容	(19) 子どもの人権	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキ)</p> <p>子どもの人権に関する研修を園内研修に位置づけ、職員一人一人が人権について知識と理解を深め、共通の認識をもって日々の保育にあたっている。</p> <p>異文化について関心をもって理解できるよう視聴覚教材など計画的に利用するなど工夫しながら機会を持つようしている。</p> <p>他者を否定しないような言葉かけや態度を保育士が率先して示し、子どもたちに伝えている。</p> <p>新年度の保護者説明会や掲示物などで保護者にも啓発活動を心掛けている。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
	(20) 性差や役割分業の意識	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキ)</p> <p>日常生活の中で、男女による差を設けていない。職員間ではジェンダーの問題について新年度を迎えるにあたって話し合いと申し合わせを行い、どの職員も意識して対応するようにしている。</p> <p>新年度保護者説明会でも性差での先入観を持たない保育内容であることを説明し、理解を得るようしている。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>

	(21) 乳児保育	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキクケコサシスセソ)</p> <p>送迎時や連絡帳などを通して子どもに対してや家庭の状況など情報交換をしっかりと行い、連携を図って一人一人の子どもに合わせた保育をすすめるようしている。</p> <p>保育担当制を取り入れ、保育士との愛着関係を元に子どもが家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるように日々配慮している。</p> <p>玩具の消毒は殺菌庫で使用した都度行っている。</p> <p>寝具は週末毎に家庭での洗濯をお願いし、それに限らず汚れたら交換してもらっている。コットも適時に消毒している。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
評価分類	評価項目	評価				評価 (または 非 該 当) の 理 由	
4 保育内容	(22) 延長保育	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキ)</p> <p>長時間にわたる保育になっている子どもの状況を受け止め、ゆったりと安心して過ごせる環境作りを心掛けている。日によって利用人数や年齢構成が違うことを考慮し、その日に合った保育が出来るよう工夫している。また異年齢の子どもが交流できる場にもなるようしている。</p> <p>通常保育からの申し送り事項に漏れがなく保護者まで伝わるよう、登降園児童チェックリストのメモ欄を引継ぎ時に職員間で確認するなどして工夫している。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>

(23) 障害児保育	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキク) 研修に積極的に参加し、研修報告等で情報を共有し理解が深まるように工夫している。</p> <p>気になる子については、クラスで関係機関と繋がりのある子どもに対して、担当保育士が保育計画を作成し毎月振り返りを行いながら次月の保育に繋がるようしている。</p> <p>北九州市の訪問保育所支援事業や、療育訪問等を積極的に受け、当該の子どもへのかかわり方や理解など意見交換をする中で子どもの発達理解や援助の方法について学ぶようしている。そこで得た情報について保育会議等で報告し全職員で共有するようしている。</p>
	委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>

評価結果集計				
	a	b	c	d
自己評価	23	0	0	0
委員評価				

I 子どもの発達援助

- ① この評価対象全般に関しての意見を記入してください。
 - ② なお、評価とは直接関係ないと思われても、貴保育所(園)が重点的に取り組んでいる点などを記入されても結構です。
- 「幼児体育」「絵本」「食育」を特色ある保育の3本の柱として保育計画を立案しています。それぞれに係りを設け、保育の中でどのように取り組んでいくのかを係を中心に話し合いながらすすめています。
- 職員が自信をもって子どもや保護者に対して保育をすすめる上で、資格取得を積極的に行っています。
- 「幼児体育」では幼児体育検定2級指導者・3級指導者・4級指導者・5級指導者とスポーツリズムトレーニングディフューザー資格のどれかを職員が保有しています。
- 「絵本」では絵本コンシェルジュ・メディアアドバイザー。
- 「食育」は調理担当の管理栄養士・栄養士が中心となって活動を進めています。
- 「子ども主体の保育」を積極的にすすめています。
- 法人内での公開保育を自園にて行い、外部講師と検討を重ねながら取り組み方法を模索してきました。実践研究を法人内の「こうさい保育セミナー」で報告することで自分たちの保育の振り返りを行い
- 子ども一人一人の欲求を見逃さず、心情に寄り添いながら各年齢の個々の発達段階に合わせた保育が提供できるように心掛けています。
- ICT化を積極的に取り入れ保護者の皆さんと情報共有するためのツールとして有効利用できるように、システムの見直し等担当者を中心に行っています。
- また保育士の業務の効率化にも繋がるような使用法を考えて実行するようしています。
- 自法人は本年度を「安全元年」として事故防止・安全指針の大幅な見直しを行いました。
- 法人の事故防止・安全指針を元に、自園オリジナルの事故防止チェックリスト・衛生チェックリスト等見直しを行い子どもたちの安全に繋がるよう活用しています。

II 子育て支援

評価 分類	評価項目	評 価				評 価 (また は 非 該 当) の 理 由	
		a	b	c	d		
1 入所児童の保護者の育児支援	(24) 保護者との相互理解	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキク) 連絡帳や送迎時に子どもの様子や家庭の状況など情報交換を行い、家庭と園相互で情報を共有し連携がしっかりと出来るようにしている。 クラス懇談会個人懇談会の機会を設け、子育てについての話ができる場を確保するようしている。 また懇談会の時に限らず、日常的に相談を受けることができることを保護者に新年度保護者説明会で知らせている。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
	(25) 児童虐待	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキク) 子ども一人一人に対しては日々の受け入れ時の視診や着替えの時に異常がないかチェックしている。 虐待が疑われる子どもが見られた場合に対応できるように研修で知識と理解を深めている。 関係機関と連携がすぐに取りれるように事務室に掲示している。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
2 地域の子育て支援	(26) 地域における子育て支援	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキクケ) 担当保育士が年間計画を作成し「にこにこ広場」を園で開催し地域の子育て家庭に保育園の施設を開放している。掲示板やホームページなどを通して地域の子育て家庭に開催と活動の内容を知らせている。 また掲示板やホームページで子育ての相談を受けることができるような体制があることを知らせている。</p>

		委員評価					該当する「判断基準」()
評価分類	評価項目	評価				評価 (または 非 該 当) の 理 由	
		a	b	c	d		
2 地域の子ども支援	(27) 一時保育	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカ)</p> <p>一人一人の子どもの状況に合わせて担当保育士が保護者との連携のもと落ち着いて過ごせるよう配慮している。</p> <p>同年齢や異年齢の子どもと過ごす機会と捉え、子どもの興味や意欲に合わせて通常保育の子どもたちとも交流できるようにしている。</p>
		委員評価					該当する「判断基準」()

評価結果集計				
	a	b	c	d
自己評価	4	0	0	0
委員評価				

Ⅱ 子育て支援

- ① この評価対象全般に関する意見を記入してください。
 - ② なお、評価とは直接関係ないと思われても、貴保育所(園)の重点的に取り組んでいる点などを記入されても結構です。
- 保育参加、一日保育士体験を呼びかけています。実際の保育の様子を体験しながら見てもらうなかで、保育所の取り組みや、子どもの発達などに理解を深めてもらう機会となるようしています。活動後は、園長または主任保育士との懇談、アンケート等で相互理解を深めるようにしています。

Ⅲ 地域の住民や関係機関等との連携

評価分類	評価項目	評価				評価（または非該当）の理由	
		a	b	c	d		
1 地域の住民や関係機関・団体との連携	(28) 地域における役割	自己評価	○				該当する「判断基準」(アイウエ) 地域の関係機関のチラシや情報を、保護者が手に取って見たり、持ち帰って見たりできるように、手に取りやすい場所に分類して情報提供している。 職員には朝礼時や、会議で情報を得た都度報告するようになっている。
		委員評価					該当する「判断基準」()

(29) 関係機関等との連携	自己評価	○			<p>該当する「判断基準」(アイウエオカ)</p> <p>地域の子育てサークルに「出前保育」として保育士が出向き、絵本の読み聞かせや手あそび、体を動かす活動や、手作りおもちゃ等の制作活動などの保育を提供している。出向いた際には積極的に保護者の皆さんに声を掛け、子育てについての話をし、相談があれば受け付けるようにしている。</p> <p>毎年「SJR 慰問」「市民センター交流会」を行いお年寄りとの交流を行っている。</p> <p>JR 病院祭(現九州鉄道病院)に参加し交流も行っている。</p> <p>第3者委員との懇談会で、地域の情報交換を行い、地域の保育ニーズを把握するようしている。</p> <p>古切手、プルタブ等の回収を保護者に呼び掛け、エコ活動への協力も積極的に行っている。清掃活動を行い地域美化に積極的に協力している。</p>
	委員評価				<p>該当する「判断基準」()</p>
(30) 小学校等との連携	自己評価	○			<p>該当する「判断基準」(アイウエオカ)</p> <p>保幼小連携担当者を中心に、大里柳小学校とは児童と園児の交流の機会を設けている。小学校の授業参観に参加したり、小学校の職員と情報交換会を行うなどして、それを元に保育の見直しを行うようしている。</p> <p>地域の中高学生のボランティア、中学生の職場体験を積極的に受け入れている。</p> <p>戸畑保育所わかば園との年長児同士の交流を積極的に行い、交互に園に訪問し、「サッカー対抗戦」を門司区のフットサル施設で行うなど交流を深めている。</p>
	委員評価				<p>該当する「判断基準」()</p>

評価 分類	評価項目	評 価				評 価 (また は 非 該 当) の 理 由	
		a	b	c	d		
1 地域の住民や関係機関・団体との連携	(31) 近隣住民への 理解	自己評価	○				該当する「判断基準」(アイウエオカ) 計画の中に散歩時などで園外に出掛ける時は、積極的に挨拶するよう計画されている。新年度保護者説明会の中で「地域の中の保育所である」という位置づけを保護者の皆さんに説明し、理解を求めている。 清掃活動を年間の行事計画の中に位置づけ、子どもたちに自分たちの保育園の近隣をきれいにする意味を伝えるようにしている。
		委員評価					該当する「判断基準」()
2 実習・ボランティア	(32) 実習生や保育 体験、ボラン ティアの受け 入れ	自己評価	○				該当する「判断基準」(アイウエオカキク) 受け入れについては、子育て支援員養成研修、主任級保育士研修、保育ゼミナール研修、実習担当者研修担当者を定めている。当園独自の保育学生、看護学生、ボランティア向けの「しおり」を準備しオリエンテーションの機会を設けている。実習生の意向や学ぶ意欲を大切にし、実習前には職員間で受け入れの体制を確認している。受け入れ時には各クラス担任との一日の振り返りの時間を設け、また実習後半では各クラスの担任が出席する実習の振り返りの会を実施している。また実習生を受け入れるときには、期日等を保護者にも伝えている。また実習生を受け入れる意味について新年度保護者説明会で説明し理解を得ている。
		委員評価					該当する「判断基準」()

評 価 結 果 集 計

	a	b	c	d
自己評価	5	0	0	0
委員評価				

Ⅲ 地域の住民や関係機関等との連携

- ① この評価対象全般に関する意見を記入してください。
- ② なお、評価とは直接関係ないと思われても、貴保育所(園)の重点的に取り組んでいる点などを記入されても結構です。

○小学校区での大里柳市民センターの行事への参加、子育てサークルへの出前保育、**SJR** への慰問、**JR** 九州病院祭（現九州鉄道記念病院）への参加、第3者委員との意見交換などで地域の情報収集を積極的に行うようにしています。

「新年度保護者説明会」では「地域の保育所」であることを保護者の皆さんに説明し地域のための活動を積極的に行っていくことを理解してもらっています。

○実習生、ボランティア、職場体験、保育士体験などを園の方針に沿って積極的に受け入れ、職員間で受け入れの意味をしっかりと確認している。

○保育所、小学校、地域との情報交換を行い、最新の保護者や子どもの姿、情報を得て、そのニーズを元に今後の自園の保育に生かしていきたいと思えます。

IV 運営管理

評価分類	評価項目	評価				評価（または非該当）の理由	
		a	b	c	d		
1 基本方針	(33) 基本方針等の策定	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカ) 保護者には「門司保育所のしおり」を元に4月の「新年度保護者説明会の際に説明している。 地域の住民の皆さんには、保育所の概況を区役所保健福祉課を通して提示しており、また園のホームページで情報提供している。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
2 組織運営	(34) 保育サービス向上への取組	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカ) 各クラスの専門リーダーを中心にクラス会議を持って課題を出し合いそこで出た意見をリーダー会議で持ち寄り次年度の計画に生かすようにしている。 保護者からの苦情が出た時には、そのことについて臨時の会議を設け職員間で情報共有し、解決策を話し合っている。 自己評価については全職員が行い、結果については全職員が周知できるようにしている。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
	(35) 職員研修	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキ) 職員の希望や経験年数を考慮し、研修機会を確保するようにしている。 研修報告は回覧し、全職員が内容を確認できるようにしている。 動画の配信機能を利用して、研修報告の機会を設けるようにしている。</p>

評価分類	評価項目	委員評価	評価				評価（または非該当）の理由
			a	b	c	d	
3 情報の管理	(36) 守秘義務の遵守と記録の管理	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウオカキ) 非該当エ</p> <p>守秘義務に対しては法人のコンプライアンスを各職員が理解、実践できるように年度初めには会議で確認する機会を設けている。</p> <p>現在のところ守秘義務についてのトラブルは発生していない。</p> <p>子どもの記録や情報についてはその管理の取り決めを、年度初めの会議で行うようしている。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>
4 情報提供	(37) 情報提供	自己評価	○				<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキ)</p> <p>保護者に対しては園だより、クラスだより、給食だより等で園の保育の状況を伝えるようしている。</p> <p>「保育所の概況」「門司保育所のしおり」を新年度の入園進級式の際には保護者に配布し内容について説明し理解をしてもらうようしている。</p> <p>保育所見学を希望された方には園のパンフレットを使用し分かりやすく説明するようしている。</p> <p>また掲示板やホームページを利用し行事予定や、園での子どもの様子など知らせている。</p>
		委員評価					<p>該当する「判断基準」()</p>

5 安全・衛生管理	(38) 安全・衛生管理	自己評価	0			<p>該当する「判断基準」(アイウエオカキク) 安全管理マニュアルの中で事故や防災に関する内容が網羅され事故防止や安全管理に関する取り組みを実施している。 避難訓練、不審者侵入訓練は月一回行い、色々な設定を考え不測の事態に備えている。 子どもの安全確保のためにあらゆる想定で緊急時対応訓練なども取り入れている。</p>
		委員評価				<p>該当する「判断基準」()</p>

評価結果集計				
	a	b	c	d
自己評価	5	0	0	0
委員評価				

Ⅳ 運営管理

- ① この評価対象全般に関しての意見を記入してください。
 - ② なお、評価とは直接関係ないと思われても、貴保育所(園)の重点的に取り組んでいる点などを記入されても結構です。
- 自法人は本年度を「安全元年」として事故防止・安全指針の大幅な見直しを行いました。
- 法人の事故防止・安全指針を元に、自園オリジナルの事故防止チェックリスト・衛生チェックリスト等見直しを行い子どもたちの安全に繋がるよう活用しています。
- 日々の保育を保護者の皆様により深く理解していただくため、ドキュメンテーションを作成し、3歳以上児は平日は毎日、3歳未満児もほぼ毎日配信をしています。写真を使い、子どもの姿が生き生きと伝わるよう工夫しています。
- 今年度からは動画配信にも取り組んでいます。
- 消防署、警察署、市民センター、大里柳小学校との交流の中から幅広く情報収集しています。またその交流の中で園の情報も公開しています。
- ホームページでも子どもの姿や行事の様子など公開し広く園の様子をPRするよう努めています。

※ⅠからⅣの評価基準には直接関係がないと思われても、貴保育所(園)の重点的に取り組んでいる点などをアピールしてください。

○「幼児体育」「絵本」「食育」を特色ある保育の3本の柱として保育計画を立案しています。それぞれに係りを設け、保育の中でどのように取り組んでいくのかに係を中心に話し合いながらすすめています。

職員が自信をもって子どもや保護者に対して保育をすすめる上で、資格取得を積極的に行っています。

「幼児体育」では幼児体育検定2級指導者・3級指導者・4級指導者・5級指導者とスポーツリズムムトレーニングディフューザー資格のどれかを職員が保有しています。

「絵本」では絵本コンシェルジュ・メディアアドバイザー。

「食育」は調理担当の管理栄養士・栄養士が中心となって活動を進めています。

またその係りの他にも「生き物係」「植物係」「整備係」を設け、それぞれに活動しています。

「生き物係」は玄関で飼育しているカメ・メダカ・金魚・イモリの世話を主に行い、

「植物係」は園庭の環境作りを行っています。環境作りの他にも「植物だより」を刊行し、今年度は親子で一緒に作れる植物の制作キットを希望者に配布するなどの活動も行い好評を得ています。

「整備係」は室内外の環境美化に努めています。

係を決めるにあたっては、各職員にアンケート調査を行い、自分がどのようなことに取り組んでいきたいかなどを尋ね、職員の自主性を尊重して決めています。

○「子ども主体の保育」を積極的にすすめています。

法人内での公開保育を自園にて行い、外部講師と検討を重ねながら取り組み方法を模索してきました。実践研究を法人内の「こうさい保育セミナー」で報告することで自分たちの保育の振り返りを行い、子ども一人一人の欲求を見逃さず、心情に寄り添いながら各年齢の個々の発達段階に合わせた保育が提供できるように心掛けています。

○ICT化を積極的に取り入れ保護者の皆さんと情報共有するためのツールとして有効利用できるように、システムの見直し等担当者を中心に行っています。また保育士の業務の効率化にも繋がるような使用法を考えて実行するようにしています。

配信機能を利用して、お知らせ文書の配信を素早く行い、日々のドキュメンテーションの配信をしたりしています。

また動画配信で子どもの生き生きした姿を伝えるなど工夫しています。

また職員内でも、動画配信機能を利用して研修報告を行うなど有効利用する努力をしています。

○自法人は本年度を「安全元年」として事故防止・安全指針の大幅な見直しを行いました。法人の事故防止・安全指針を元に、自園オリジナルの事故防止チェックリスト・衛生チェックリスト等見直しを行い子どもたちの安全に繋がるよう活用しています。

○また鉄道弘済会という法人ならではの取り組みとして、技師装具サポートセンターから職員を招いて技師装具体験を行い、VRを使った障害を持った方の日常の体験を積極的に行っています。